



バーゼルワールド2014

パテック フィリップ ジュネーブ
2014年3月

パテック フィリップ Twenty~4®ハイジュエリー4909/110モデル 《アクアティック・ライフ》： 最高のジェム・セッティング芸術を体現したハイジュエリー・タイムピース

1839年の創業以来、パテック フィリップは、価値あるタイムピースに美しさと希少性を兼ね備えた外装を与える、ハンドクラフトの技術を保護育成してきた。バーゼルワールド2014でヴェールを脱ぐTwenty-4®ハイジュエリー4909/110モデルは、その輝かしい例のひとつであり、パテック フィリップのジュエリー工房が、創作デザイン、貴石のクオリティとアレンジ、ジェム・セッティングのいずれにおいても、世界最高のジュエリー・メーカーに優るとも劣らぬレベルを誇っていることを示している。ジェム・セッティングには、伝統的な《グレイン・セッティング》、洗練された《クロウ・セッティング》、《ランダム・セッティング》、きわめて高度な《インビジブル・セッティング》などがある。

ダイヤモンドの海

Twenty-4®ハイジュエリー4909/110モデルは、合計1,937個のダイヤモンドとサファイヤ（合計約43.73カラット）が、文字盤、ケース、ブレスレット、バックルを《アクアティック・ライフ》と名づけられた詩的なモチーフで装飾している。ブルー・サファイヤによるさまざまな大きさの魚が、ダイヤモンドの海の中を遊泳する様を描いている。ダイヤモンドとサファイヤは、最高の純度と非の打ち所のないカットを誇っている。バゲットカット・ダイヤモンドはピュア・トップウェッセルトン（純白）であり、サファイヤは深みのあるブルーが印象的である。パテック フィリップ・デザイン部門により創作されたこの作品は、パテック フィリップ・ジュエリー工房において正統的な技術に則って製作されたものである。

18金ホワイトゴールドのケースとブレスレットのわずかに傾斜した両側面には、バゲットカット・ダイヤモンドが《クロウ・セッティング》の方法でセッティングされている。ケース両サイドのダイヤモンドは扇状に配置されているため、各々の石は、決められた場所に完璧に収まるよう個別にカットされている。ブレスレット中央部と文字盤を飾るバゲットカット・ダイヤモンドは、《インビジブル・セッティング》の方法によりセッティングされている。このセッティング技術は最も困難なものひとつとされている。また石の取扱い上、最もリスクの高い方法でもある。バゲットカット・ダイヤモンドを接合部が見えないように隙間なく敷き詰め、石と石の間には金属の爪も、ケースやブレスレットの地も見えてはならない。このためには、パビリオン（ダイヤモンドの下部）に水平な細い溝を穿つ特殊なカットが必要である。他方、ケースやブレスレットの対応箇所には、石に穿たれた溝のはまる微細なルール状の部分形成する。ダイヤモンドは上から押し込むように入れる。所期の仕上がりを得るためには、ケースやブレスレットの無数のルールおよび石の溝は、数十分の1ミリ単位の精度で工作しなければならない。こうして形成されたダイヤモンドの海に、さまざまな大きさのブルーの魚をアップリケの方法で取り付ける。最も小さな魚は、マーキーズカットのソリティア・サファイヤをローズゴールドの枠に《クロウ・セッティング》の方法で取り付けたものである。最も大きな魚は、複数のブリリアントカットのサファイヤを、魚と斑点の形を再現したローズゴールドの枠に《グレイン・セッティング》の方法で取り付けてある。これらのアップリケは純白なダイヤモンドの地の上に乗っており、ダイヤモンドからの



反射光がサファイヤを通過し、ブルーに輝きと深みを与える。しかしジェム・セッターの仕事はこれで終わりではない。Twenty-4®《アクアティック・ライフ》には、さらに855個の微小なブリリアントカット・ダイヤモンド（合計約1.70カラット）がブレスレットのリンクとリンクの間にセッティングされているのである。

精緻な仕上がりを見せるメカニズム

Twenty-4®ハイジュエリー4909/110モデルは、サファイヤクリスタル・バックを通してもうひとつの宝石を鑑賞することができる。パテック フィリップの手巻ムーブメント、キャリバー16-250である。テンプ受けを含む3枚の受けの縁にはわずかに丸味を帯びた面取りが施され、念入りにポリッシュ仕上げされている。表面には著名なコート・ド・ジュネーブ装飾が施されている。赤い穴石（ルビー）が鮮やかなアクセントを添え、テンプ、2番車、および受けの刻印が金色の輝きを見せる。時計製作の偉大な伝統に準拠して製作されたこの機械式ムーブメントの動きは、見る者を魅了せずにはおかない。28,800振動（片道）／時（4 Hertz）で往復回転するテンプとこれに連動するアンクルがガンギ車を規則正しく回転させ、その回転が4番車、3番車、2番車へと伝わり、筒カナと筒車に取り付けられた分針と時針を回転させる。バトン型時・分針、およびXII、VIの植字ローマ数字は18金ローズゴールドである。これらはパテック フィリップの著名な婦人用タイムピースTwenty-4®の伝説的なデザインの一部をなしている。

パテック フィリップと《希少なハンドクラフト》

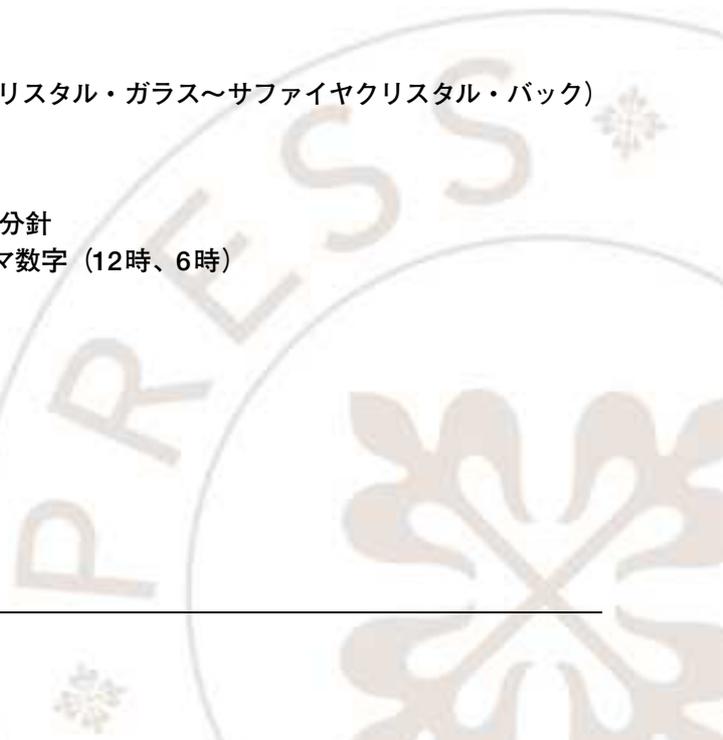
1839年にマニュファクチュールパテック フィリップを創業したアントワーヌ・ノルベール・ド・パテックの決意は《世界最高の時計をつくる》ことであった。彼は、タイムピースにおいては、内部のメカニズムと外装は分かちがたく結びついたひとつのものであると考えていた。この考え方は今日でも変わっていない。パテック フィリップ・シールの規定はこのことを明確に謳っている。175年の歴史を通じてマニュファクチュールパテック フィリップは、偉大な時計製作技術を永続させ、発展させることだけに努力してきたのではない。ムーブメントとケースを美しく装飾するのに必要なすべての高度に専門化された工芸技術——七宝（七宝細密画、クロワゾネ七宝、シャンルヴェ七宝など）、彫金（浮彫り、沈み彫り）、ギョシェ装飾、金細工、ジェム・セッティング——の保護育成にも心を砕いてきた。二十世紀に入り、豪華に装飾されたタイムピースへの需要が減少し、それと共にこれらの装飾を行う職人の数も減り続けていた。パテック フィリップは、作品には買い手がなく、結局はパテック フィリップのオーナー、スターン家のプライベート・コレクションになることが分かっていたとしても、彼らに仕事を与え続けたのである。これらの作品の多くは今日、パテック フィリップ・ミュージアムに展示され、空前の人気を集め、計り知れない価値を持つに至っている。しかしさらに重要なことは、パテック フィリップのコミットメントにより、残された最後の職人たちが自らの技能を若い世代に伝えることができた、ということである。こうしてこれらの希少な技術を将来の世代に伝えていくことが可能となったのである。《希少なハンドクラフト》はきわめて重要な文化的遺産である。なぜならこれらの技術がなかったら、スイスの時計産業は、決してこれほどの規模で世界に知れ渡ることにはなかったからである。



技術仕様

Twenty~4® スモール・ハイジュエリー4909/110 モデル、18K ホワイトゴールド仕様

ムーブメント	キャリバー16-250 手巻ムーブメント
直径：	16.30 mm
厚さ：	2.50 mm
部品総数：	101個
石数：	18石
連続駆動可能時間：	最小38時間
テンプ：	環型テンプ
振動数：	28,800 振動（片道）／時（4 Hz）
髭ぜんまい：	平髭式
髭持ち：	可動式
セッティング機能：	リュウズの2位置 ・引き出した位置：時刻合わせ ・押し込んだ位置：巻上げ
表示：	時針、分針
認定印：	パテック フィリップ・シール
外装	
ケース：	18金ホワイトゴールド サファイヤクリスタル・バック 3気圧防水
ケース寸法：	長さ：27.80 mm（6時～12時） 横幅：24 mm（3時～9時） 厚さ：7.50 mm 厚さ：7.20 mm（サファイヤクリスタル・ガラス～サファイヤクリスタル・バック） ラグ間隔：13 mm
文字盤：	18金ホワイトゴールド、全面パヴェ 18金ローズゴールド・バトン型時・分針 2個の18金ローズゴールド植字ローマ数字（12時、6時）





- ダイヤモンド： 1,937個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドとサファイヤをセッティング（合計約43.73カラット）
- ケース： 46個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドをセッティング（合計約3.97カラット）
- 文字盤： 41個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドをインビジブル・セッティング（合計約1.97カラット）、2個のマーキーズカット・サファイヤをクロー・セッティング（合計約0.07カラット）、32個のサファイヤをグレイン・セッティング（合計約0.12カラット）
- ブレスレット： 694個のバゲットカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンドをクロー・セッティング（合計約30.81カラット）、855個のブリリアントカット・ピュア・トップウェッセルトン・ダイヤモンド（合計約1.7カラット）、31個のマーキーズカット・サファイヤをクロー・セッティング（合計約3.48カラット）、236個のサファイヤをグレイン・セッティング（合計約1.63カラット）

